

## ことばを育てるヒント … 「ことばをつくろう」

今回は平仮名を用いて、ことばをつくるあそびです。あらかじめ覚え違いのことばがわかっているならば、チャンスです。例えば下記①の並びかえを通してさりげない覚えなおしが期待できます。

例：「ひまわり」を「ひまーり」と言う場合、**ひ り わ ま**を並びかえる活動を通して、「ひまわり」と言う体験ができます。

### 「ことばをつくろう」

平仮名のカードやマグネットなどを用意します。(紙片や小さいホワイトボードに書いてもOKです)

① 提示された文字を並びかえて、ことばをつくります。

例： **ん み か** → **み か ん**

\*最初は子どもがよく知っていることばや、文字数が少ないことばから始めてみてください。

②最初の文字だけ決めて、あとは子どもが残りの文字からことばをさがして並べます。

例： **か ら さ あ は** → **か さ**  
**て と な す や** **か ら す**

\*何も決めずに、自由にことばを作ることも出来ます。(上記例：**は な さ か な**など)

\* \* ②で覚え違いを見つけた場合、訂正や言い直しはせず、別の単語カードなどを自分で見て確認することで、覚え違いに気がつくことが期待できます。

\* \* 文字通りに発音できない場合、年齢的にまだ発音が完成していない場合があります。

(参考：おおよそ5～6歳代で完成する音 サ行・ザ行・ツ・ツ・ウ行)

## ～乳幼児期の育ちを考える～

### 『非認知能力』を大人側から考えてみる

新年早々の災害に皆さま心痛めておられる事と思います。その頃の話で恐縮ですが、箱根駅伝をご覧になられましたか？筆者は学生たちの姿に、毎年感動をもらっています。今年は一強と言われた駒沢大に対し、青山学院大の想定をはるかに超えた活躍がありました。でも想定外だったのでしょうか？学生達はそうは思っていなかったようで、コメントがそれを物語っていました。

ストレスを抱える状況を乗り越える、その経験を糧に出来るために育てたいものとして、「首尾一貫感覚」を健康社会学者が1970年代に提唱しています。

- ◎把握可能感・・・自分の置かれた状況を理解「わかる」感覚
- ◎処理可能感・・・この状況を乗り越えられる「できる」感覚
- ◎有意味感・・・渦中にある経験に意味を見出す「やるぞ」感覚

「首尾一貫感覚」は、ずっとお話ししてきた非認知能力である「学びに向かう力や姿勢」と似ていませんか？青学の姿は、この感覚を十分に身につけ、様々なストレスシュミレーションを繰り返した結果と勝手に考えています。自分で或いは仲間と乗り越えていく環境を整える周囲のサポートも大きいのは言うまでもありません。

就学前のうちに大人に見守られながら「大丈夫、自分ではできる」「やってみよう」をたくさん味わい、考え、経験して欲しいと思います。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます  
夢と希望もてる たからっこを  
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター  
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1  
電話 0797-71-1141(市役所)  
0797-77-2132(直通)  
FAX 0797-71-1891  
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。